

平成27年6月18日

平成26年中における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成26年中の山岳遭難は

○ 発生件数	2, 293件	(前年対比+121件)
○ 遭難者	2, 794人	(前年対比 +81人)
うち死者・行方不明者	311人	(前年対比 -9人)
負傷者	1, 041人	(前年対比 +38人)
無事救助	1, 442人	(前年対比 +52人)

であり、発生件数、遭難者が、統計の残る昭和36年以降で最も高い数値となった。

過去10年間の山岳遭難発生状況をみると増加傾向にあり、平成17年と比較すると

○ 発生件数	+911件	(+65.9%)
○ 遭難者	+1, 110人	(+65.9%)
○ 死者・行方不明者	+38人	(+13.9%)

となっている。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、

○ 長野県	272件
○ 富山県	133件
○ 北海道	120件

の順であった。

2 山岳遭難の特徴と未然防止対策

(1) 目的別・態様別

全遭難者2, 794人について、目的別にみると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。）が77.0%と最も多く、次いで山菜・茸採りが11.7%を占めている。

また、態様別にみると、道迷いが41.6%と最も多く、次いで滑落が17.9%、転倒が14.4%を占めている。

(2) 年齢層別

40歳以上の遭難者が2, 136人と全遭難者の76.4%を占めており、このうち、60歳以上が1, 401人と全遭難者の50.1%を占めている。

また、40歳以上の死者・行方不明者が286人と全死者・行方不明者の92.0%を占めており、このうち60歳以上が214人と全死者・行方不明者の68.8%を占めている。

(3) 単独登山者の遭難状況

単独登山における死者・行方不明者は190人で、全単独遭難者の20.2%を占めており、複数（2人以上）登山における遭難者のうち死者・行方不明者が占める割合（6.5%）と比較すると約3.1倍となっている。

(4) 通信手段の使用状況

全発生件数2,293件の75.4%が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請の増加が予想されるが、携帯電話は通話エリア内での万が一の通話手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

(5) 山岳遭難の未然防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

○ 登山計画の作成、提出

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配意して、余裕のある、安全な登山計画を立てる。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

また、作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

○ 危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

○ 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

注：%は、小数点以下第2位を四捨五入。（表1～10においても同じ。）

表1 概要

		平成26年	平成25年	増減	
発生件数(件)		2,293	2,172	+ 121	
遭難者(人)	死者・行方不明者	死者	272	278	- 6
		行方不明者	39	42	- 3
		小計	311	320	- 9
	負傷者	1,041	1,003	+ 38	
	無事救出	1,442	1,390	+ 52	
	合計	2,794	2,713	+ 81	

表2 過去10年間の山岳遭難発生状況

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
発生件数(件)	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830	1,988	2,172	2,293
遭難者(人)	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204	2,465	2,713	2,794
死者・行方不明者(人)	273	278	259	281	317	294	275	284	320	311

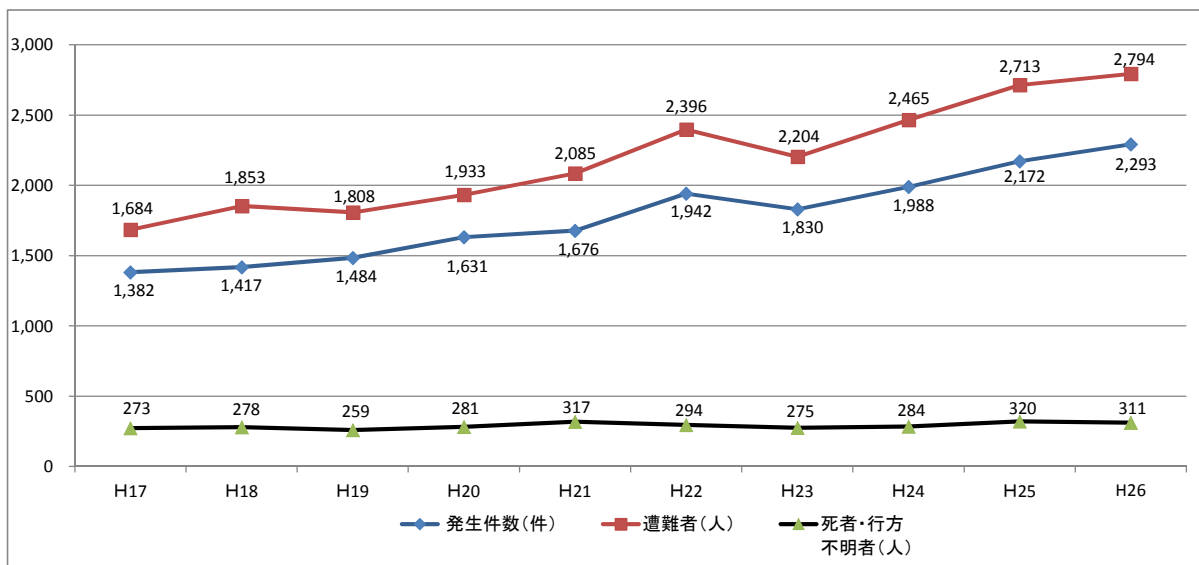


表3 都道府県別山岳遭難発生状況

(平成26年中)

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明者	負傷者	無事救出
北海道	120	135	12	1	32	90
青森県	52	59	7	1	12	39
岩手県	32	34	1	1	23	9
宮城県	22	26	2	1	9	14
秋田県	67	87	14	4	19	50
山形県	77	88	14	2	26	46
福島県	52	58	9	1	28	20
東京都	108	134	5	1	56	72
茨城県	15	20	1	1	4	14
栃木県	41	49	5		14	30
群馬県	88	107	9	1	55	42
埼玉県	69	88	9		35	44
千葉県	5	9			3	6
神奈川県	97	131	7		40	84
新潟県	83	92	11	2	44	35
山梨県	110	127	19	4	61	43
長野県	272	301	46	5	148	102
静岡県	116	131	8	1	41	81
富山県	133	151	18		79	54
石川県	19	22		1	14	7
福井県	15	17	2		7	8
岐阜県	106	132	23	1	60	48
愛知県	11	13	1	1	3	8
三重県	69	87	6	1	31	49
滋賀県	66	91	8	1	27	55
京都府	21	24	1		8	15
大阪府	11	18	2		4	12
兵庫県	108	132	10		49	73
奈良県	38	46	3	4	8	31
和歌山県	12	16	1		4	11
鳥取県	24	30	3		12	15
島根県	4	4			3	1
岡山県	9	12		1		11
広島県	14	46	1		2	43
山口県	2	2			1	1
徳島県	18	28	4		5	19
香川県	3	3			2	1
愛媛県	23	28	1		9	18
高知県	6	16	1		2	13
福岡県	30	43	2		12	29
佐賀県	15	19		1		18
長崎県	9	20			13	7
熊本県	15	16	4	1	7	4
大分県	37	43			8	35
宮崎県	16	21	1	1	6	13
鹿児島県	32	37	1		15	21
沖縄県	1	1				1
合計	2,293	2,794	272	39	1,041	1,442

表4 目的別山岳遭難者

	平成26年		平成25年		増減		
	人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率	
登山	登山	1,828	65.4%	1,645	60.6%	+ 183	11.1%
	ハイキング	188	6.7%	150	5.5%	+ 38	25.3%
	スキー登山	58	2.1%	61	2.2%	- 3	-4.9%
	沢登り	43	1.5%	48	1.8%	- 5	-10.4%
	岩登り	34	1.2%	43	1.6%	- 9	-20.9%
	登山(合計)	2,151	77.0%	1,947	71.8%	+ 204	10.5%
山菜・茸採り	328	11.7%	360	13.3%	- 32	-8.9%	
観光	99	3.5%	130	4.8%	- 31	-23.8%	
作業	43	1.5%	59	2.2%	- 16	-27.1%	
溪流釣り	31	1.1%	32	1.2%	- 1	-3.1%	
写真撮影	20	0.7%	20	0.7%	±0	0.0%	
自然観賞	14	0.5%	3	0.1%	+ 11	366.7%	
山岳信仰	10	0.4%	10	0.4%	±0	0.0%	
狩猟	3	0.1%	6	0.2%	- 3	-50.0%	
その他	87	3.1%	146	5.4%	- 59	-40.4%	
不明	8	0.3%	0	0.0%	+ 8	-	
合計(人)	2,794		2,713		+ 81	3.0%	

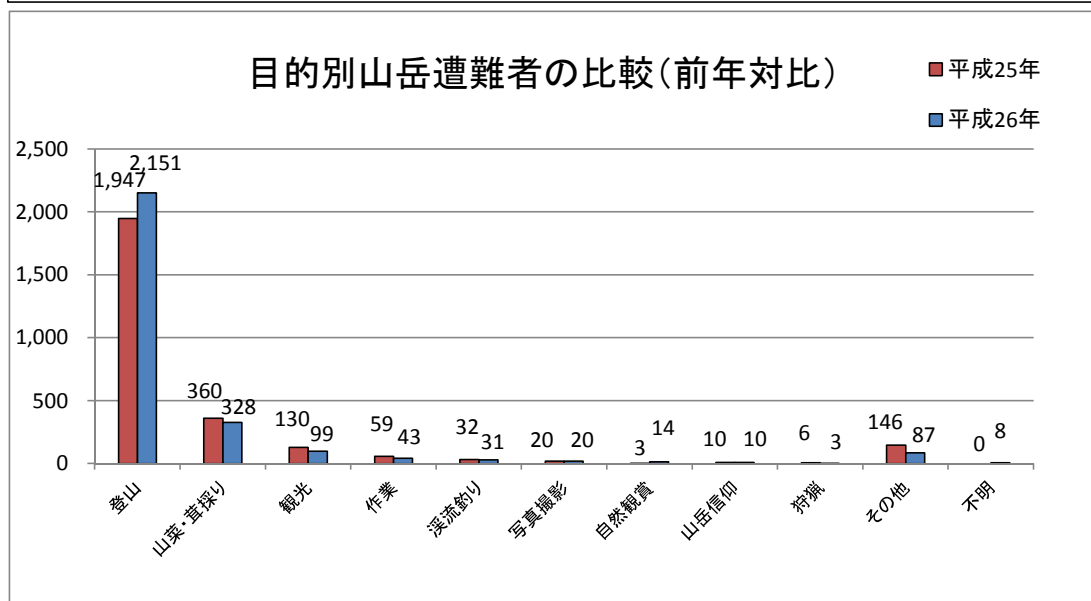
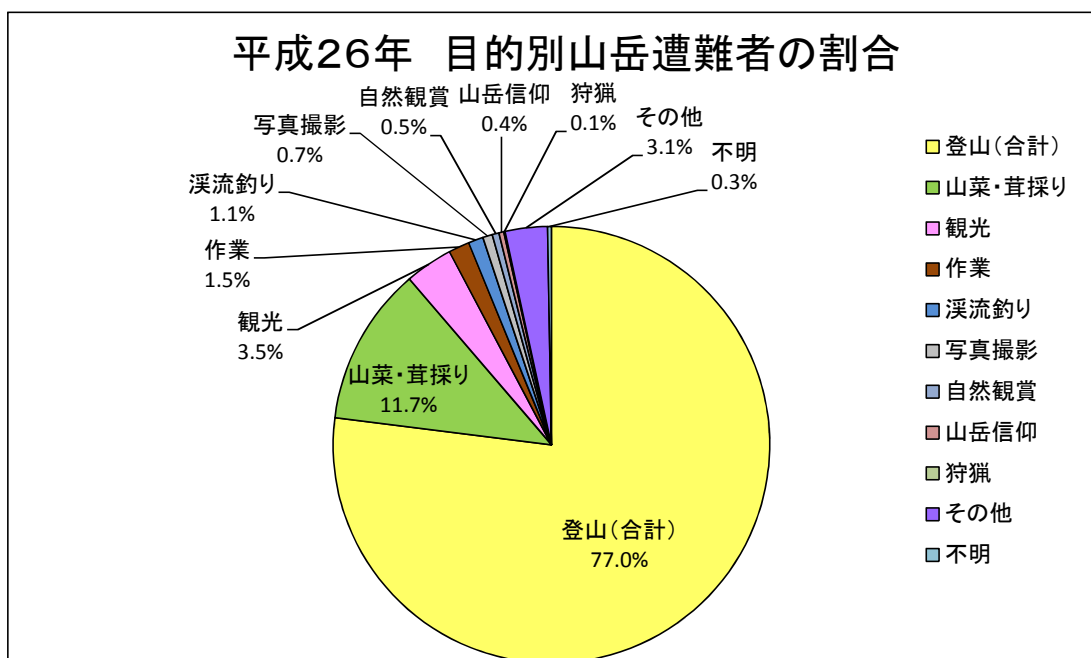


表5 態様別山岳遭難者

	平成26年		平成25年		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
道迷い	1,163	41.6%	1,134	41.8%	+ 29	2.6%
滑落	501	17.9%	460	17.0%	+ 41	8.9%
転倒	401	14.4%	393	14.5%	+ 8	2.0%
病気	187	6.7%	221	8.1%	- 34	-15.4%
疲労	162	5.8%	137	5.0%	+ 25	18.2%
転落	90	3.2%	73	2.7%	+ 17	23.3%
野生動物襲撃	48	1.7%	42	1.5%	+ 6	14.3%
悪天候	42	1.5%	64	2.4%	- 22	-34.4%
落石	16	0.6%	17	0.6%	- 1	-5.9%
雪崩	9	0.3%	20	0.7%	- 11	-55.0%
鉄砲水	2	0.1%	7	0.3%	- 5	-71.4%
落雷	0	0.0%	3	0.1%	- 3	-100.0%
有毒ガス	0	0.0%	1	0.0%	- 1	-100.0%
その他	108	3.9%	83	3.1%	+ 25	30.1%
不明	65	2.3%	58	2.1%	+ 7	12.1%
合計	2,794		2,713		+ 81	3.0%

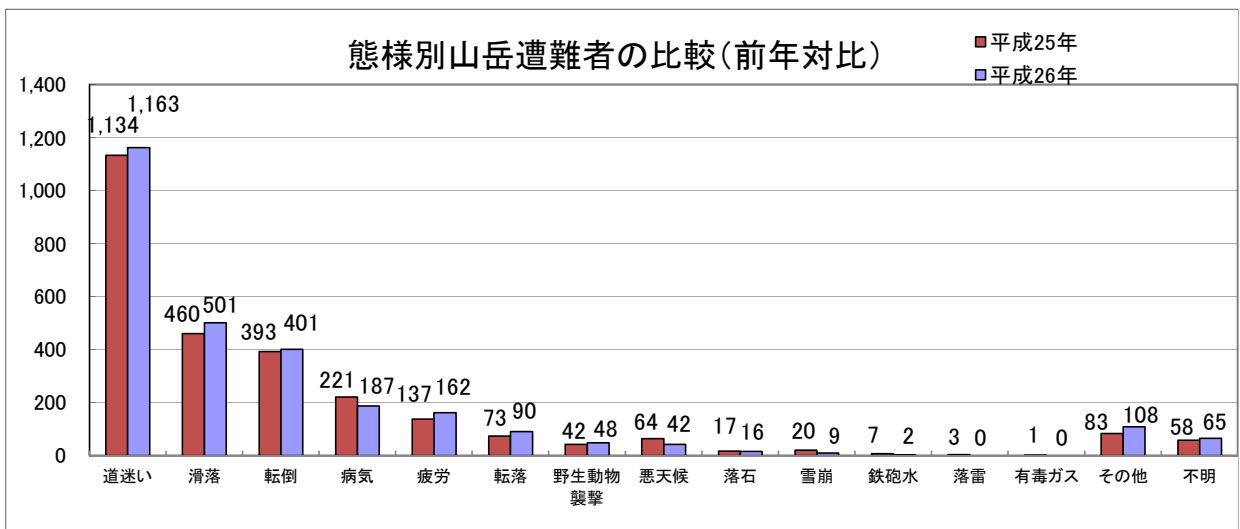
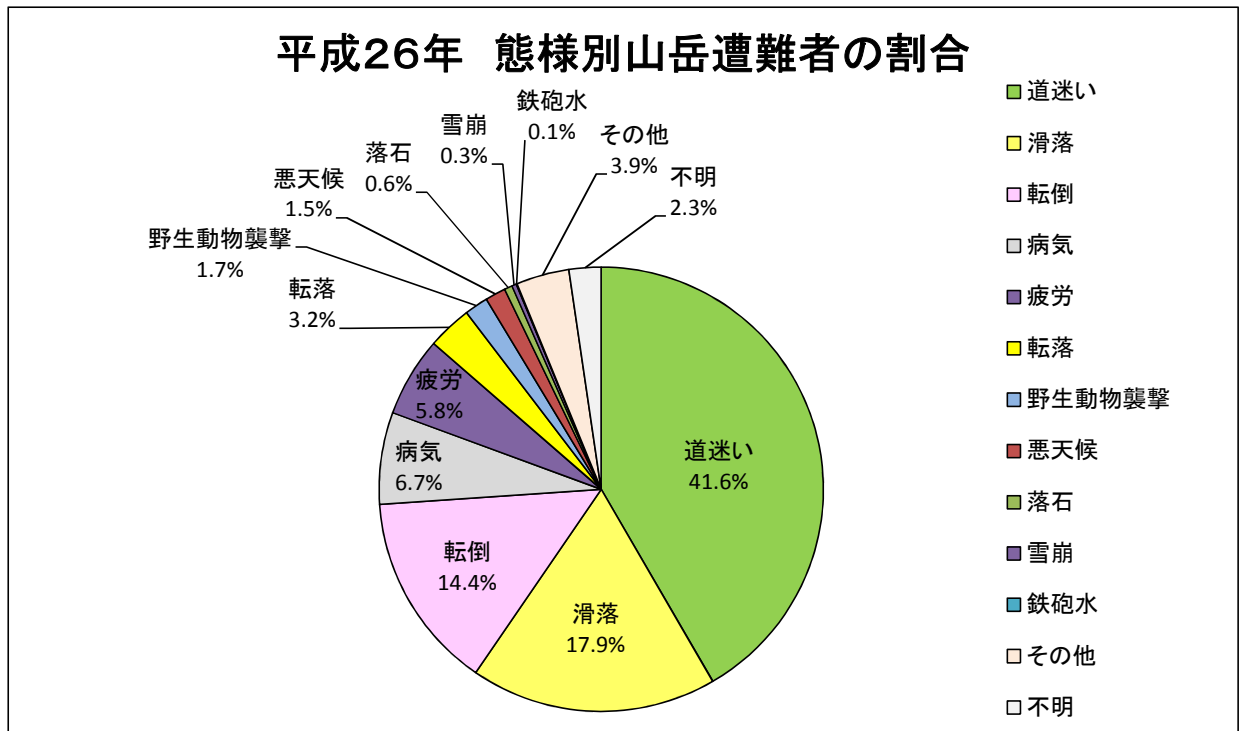


表6 年齢層別山岳遭難者

	平成26年		平成25年		増減	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
20歳未満	153	5.5%	230	8.5%	- 77	-33.5%
20～29	222	7.9%	236	8.7%	- 14	-5.9%
30～39	281	10.1%	251	9.3%	+ 30	12.0%
40～49	333	11.9%	332	12.2%	+ 1	0.3%
50～59	402	14.4%	406	15.0%	- 4	-1.0%
60～69	744	26.6%	686	25.3%	+ 58	8.5%
70～79	537	19.2%	466	17.2%	+ 71	15.2%
80～89	114	4.1%	97	3.6%	+ 17	17.5%
90歳以上	6	0.2%	9	0.3%	- 3	-33.3%
不明	2	0.1%	0	0.0%	+ 2	-
計(人)	2,794		2,713		+ 81	3.0%

平成26年 年齢層別山岳遭難者の割合

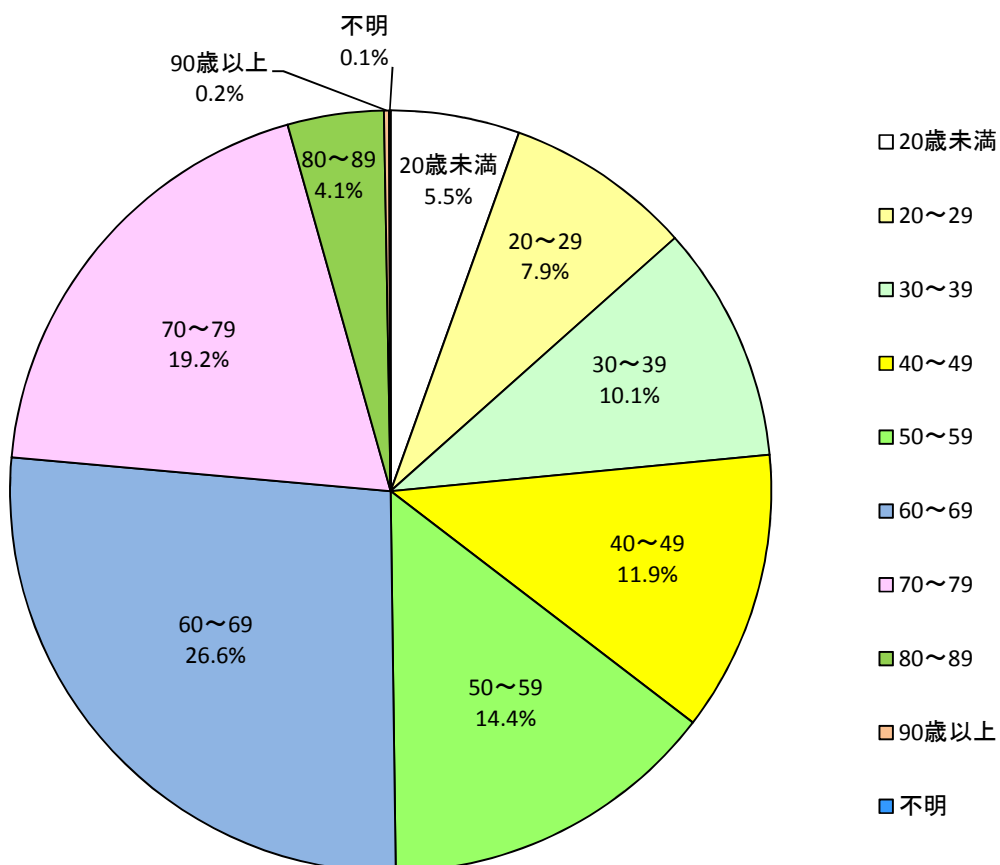


表7 40歳以上・60歳以上の遭難者(過去5年)

	H22	H23	H24	H25	H26
遭難者(人)	2,396	2,204	2,465	2,713	2,794
うち40歳以上(人)	1,822	1,696	1,837	1,996	2,136
比率(%)	76.0%	77.0%	74.5%	73.6%	76.4%
うち60歳以上(人)	1,199	1,118	1,227	1,258	1,401
比率(%)	50.0%	50.7%	49.8%	46.4%	50.1%

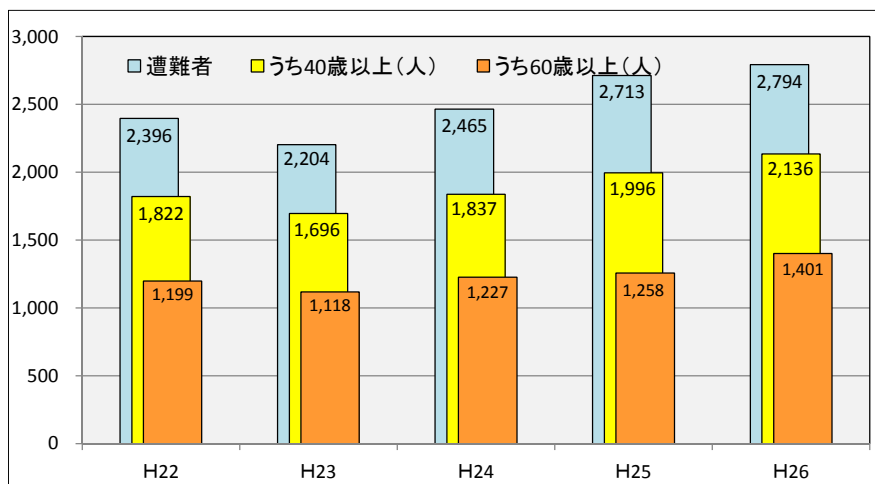


表8 40歳以上・60歳以上の死者・行方不明者(過去5年)

	H22	H23	H24	H25	H26
死者・行方不明者(人)	294	275	284	320	311
うち40歳以上(人)	266	251	254	293	286
比率(%)	90.5%	91.3%	89.4%	91.6%	92.0%
うち60歳以上(人)	194	190	194	204	214
比率(%)	66.0%	69.1%	68.3%	63.8%	68.8%

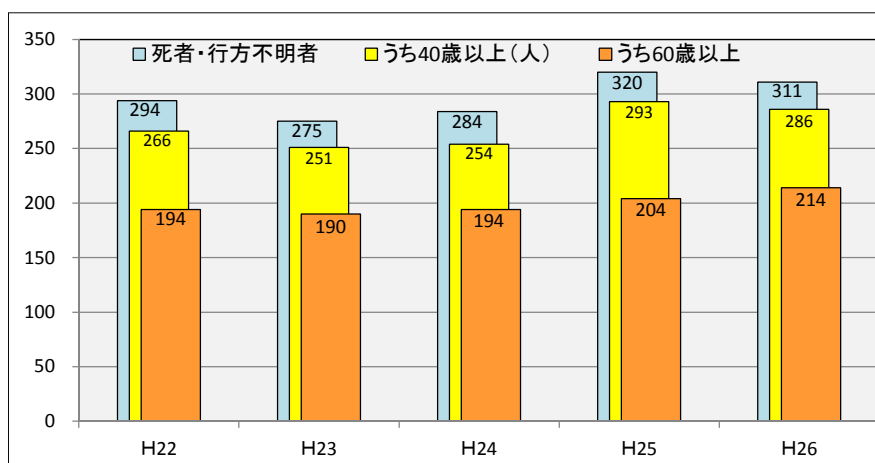


表9 単独登山者の遭難状況

			平成26年		平成25年		増減	
			人数	構成比	人数	構成比	人数	増減率
遭難者 (人)	死者・行方不明者	死者	160	17.0%	131	15.4%	+ 29	22.1%
		行方不明者	30	3.2%	33	3.9%	- 3	-9.1%
		小計	190	20.2%	164	19.2%	+ 26	15.9%
	負傷者		291	30.9%	284	33.3%	+ 7	2.5%
	無事救出		460	48.9%	404	47.4%	+ 56	13.9%
	合計		941		852		+ 89	10.4%

平成26年 単独登山者の
遭難状況

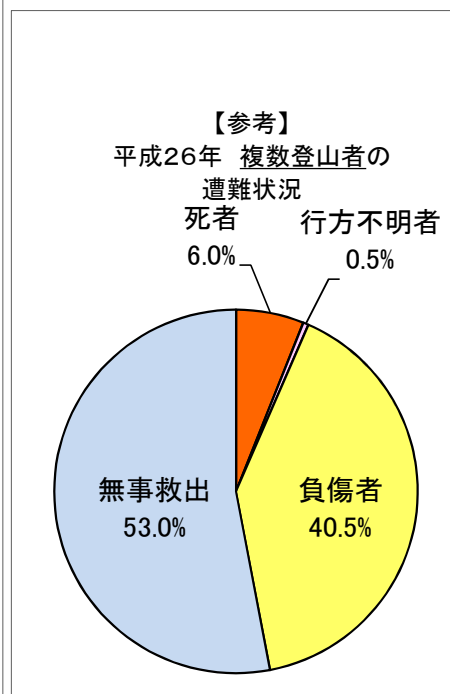
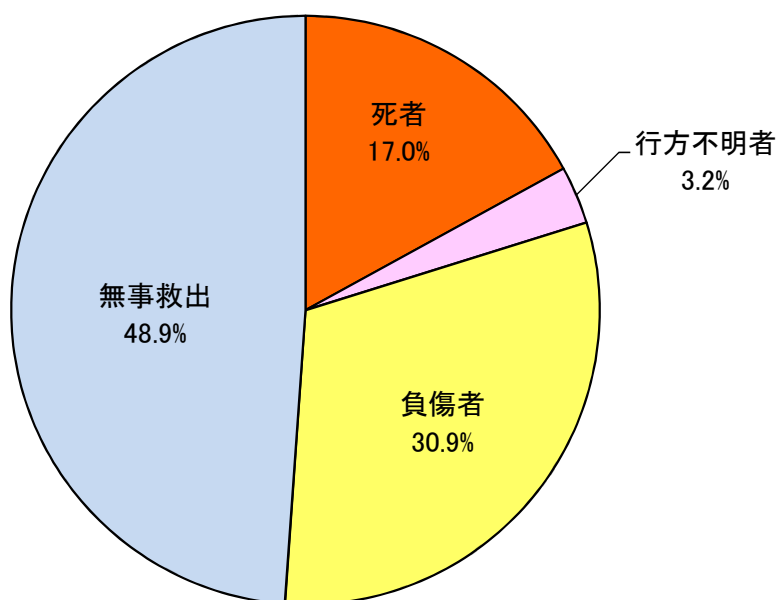
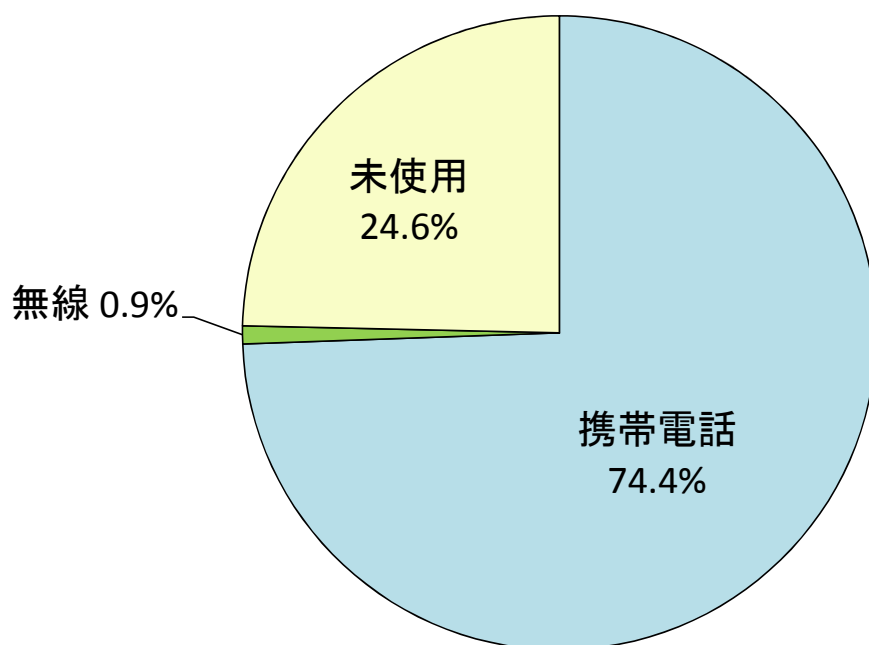


表10 通信手段の使用状況

		平成26年		平成25年		増減	
		総数	構成比	総数	構成比	総数	増減率
発生件数(件)		2,293		2,172		+ 121	
使用	携帯電話(件)	1,707	74.4%	1,527	70.3%	+ 180	11.8%
	無線(件)	21	0.9%	21	1.0%	±0	0.0%
	合計(件)	1,728	75.4%	1,548	71.3%	+ 180	11.6%
未使用(件)		565	24.6%	624	28.7%	- 59	-9.5%

平成26年 通信手段の使用状況



※ 携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。